

令和5年度 備前県民局地域づくり支援事業 最終報告

実施団体：NPO法人ママほっとサロン

担当課：備前県民局福祉振興課

<事業名> 子育て親子支援事業 ～親子が安心して過ごせる温かな居場所づくり～

<事業概要・各主体の役割>

(事業概要)

木のおもちゃ遊びを通じて親子が安心して過ごせる温かな居場所（おでかけひろば事業）を提供し、他の親子との交流を促すとともに、妊娠期から子育て期の相談事業を実施する。併せて、ひとり親など困窮家庭へ食料品等の提供（ハッピー♥サイクル事業）を行う。

さらに、子育てや自分自身のことをゆったりと相談できる場（子育て相談事業 ママほっとカフェ）を設け、子育て期の親の心に寄り添ったオーダーメイドの子育て支援を行う。

(各主体の役割)

- ・実施団体：①「おでかけひろば事業」の実施（親子の交流促進、相談、情報提供）。
②連携機関（実施先）との連絡調整。
③協力団体との連絡調整。
④相談員との連携と相談事業の実施。
⑤「ハッピー♥サイクル事業」の実施。
⑥「子育て相談事業 ママほっとカフェ」による相談事業の実施。
- ・担当課：事業企画協力、広報協力、補助金交付

<実施状況>

1. ママほっとカフェ実施状況

開催場所：和気町事務所隣の部屋

月 日	利用状況			面談 (件数)	相談 (件数)	カフェ利用 (件数)	ハッピー♥サイ クル利用(件数)
	組数 (組)	大人 (人)	子ども (人)				
令和5年5月11日	4	4	2	2	1	2	5
6月15日	5	6	9	4	3	2	5
7月13日	5	5	7	5	2	0	5
8月10日	7	8	3	2	2	0	7
9月14日	9	11	10	11	9	10	9
10月12日	11	11	11	11	8	10	10
11月9日	12	12	11	12	9	6	12
12月14日	9	10	11	10	3	9	9
1月11日	9	9	8	8	4	9	7
2月8日	13	13	17	13	11	20	12
合計	84	89	89	78	52	68	81

① 「子育て相談事業 ママほっとカフェ」による相談事業

- ・当団体 SNS や公式ラインアカウントにて開催の案内を行った。
- ・相談内容については、生活困窮、母の体調、育児不安、子どもの不登校、母子家庭の母親の仕事のことに加え、家の片付け、園の保護者との関係、入園申請書類の書き方、夫婦の不和などがあつた。利用者が少ない時間帯に来所して相談する傾向がある。
- ・カフェでドリンクを希望する方が少ないことや、参加者の来所が重なり品物提供や面談などの対応に追われることがあり、9月からは相談員（小児科看護師）を増やし、相談員3人体制で実施した。
- ・ドリンク（団体事業で購入し無料で提供）は、スタッフが声をかけることで希望者が増えていった。
- ・ハッピー♥サイクルの品物提供を受けるのみで足早に帰られていた方も、徐々に環境に慣れていき、ドリンクを飲んで近況を話して帰る姿が見られるようになった。
- ・ハッピー♥サイクルを利用している放課後児童クラブの小学4年生が、自分たちが企画した小学校でのイベントの宣伝をしたいと来所し、利用している親子へプレゼンを行う場面があつた。小学生と乳幼児を育てる親子の交流の場となった。



2. おでかけひろば実施状況

月日	地区	参加組数	大人人数	こども人数	相談員	相談件数	ハッピー♥サイクル利用組数
7月22日	瀬戸内市	24+α	24+α	36+α	助産師 小児科看護師	12	5
9月15日	和気町	7	9	8	家庭医 作業療法士	16	6
11月17日	備前市	7	8	9	助産師 社会福祉士	5	8
1月11日	岡山市	13	13	14	歯科医 言語聴覚士(2名)	10	8
合計		51+α	54+α	67+α	9	43	27

- ・7/22の会は、瀬戸内市社会福祉協議会が主催する「衣類交換会」（学校の制服や体操服などが出品される）にあわせて「おでかけひろばミニ」を実施した。9/15、11/17、1/11については、それぞれ和気町、備前市、岡山市において計画通りのおでかけひろばを実施した。

- ・利用者アンケート（QR コードでの回答）については、瀬戸内市での回答数は 2 件であった。以降 3 回のおでかけひろばの参加者アンケート回収率は 90%であった。
- ・アンケートより、おでかけひろばの参加満足度は、「よかった」「まあまあよかった」を合わせてほぼ全員が満足していた。
- ・アンケートより、「今後も参加したい」は 100%であり、参加者にとっては再度参加したい事業である。
- ・おでかけひろばに参加した子どもたちは、積極的に片付けを手伝う姿が毎回見られた。
- ・おでかけひろば終了後、連携先のスタッフと全員で事業の振り返りを毎回実施し、今後の親子支援の方向性や、相談内容の共有、その回ごとの事業としての成果と課題を話し合った。初対面では親子との関係づくりができていくに難しかったと相談員やスタッフからの声が上がった。
- ・本事業において提供した木のおもちゃ遊びについて、備前市三石こども園、岡山市立万富公民館、NPO 法人赤磐子ども NPO センター、NPO 法人子どもたちの環境を考えるひこうせんから一般社団法人にいみ木のおもちゃの会へ個別に依頼がおこなわれるなど、木のおもちゃ遊びの需要が広がっている。

2. 「おでかけひろば」に参加してみて、いかがでしたか？

29 件の回答



10. 今回の「おでかけひろば」のような事業に、今後も参加したいと思いますか？

29 件の回答



① 遊び

- ・木のおもちゃは、シンボルとなるカラコロタワーや木の玉プールを用意し、参加者が興味を持ちやすい環境を考えた。
- ・数種類の木のおもちゃに「クミノ」を通じて、木のぬくもりに触れてもらうことができた。また、父親が夢中になって「クミノ」で遊んだり、複雑

な形の組木を子どもが真似て組んでいたりする姿があった。

- ・ままごとでは、素材や道具を使って遊ぶ環境が大盛況で、子どもたちがよく遊んでいた。それを踏まえ、ままごと素材がより活用できるようままごと道具を増やし、ままごと遊びのイメージが膨らむ工夫をした。子どもたちは、混ぜる、入れる、出すなどの作業を楽しんでいた。
- ・月齢が低い赤ちゃんは視覚や聴覚を使うことが遊びであることを伝え、追視のおもちゃを数種類紹介した。参加者から、赤ちゃんの遊びがどのようなものかを知ることが出来てよかったとの感想があった。

<アンケートより>

- ・子供が楽しく遊んでいる様子が見られて良かった。
- ・普段遊ぶことが無い木のおもちゃで遊べたので良かった。
- ・子どもが手にしたことのないおもちゃがたくさんあって良かったです。
- ・子供も安心して、楽しんで遊べる空間をありがとうございました。
- ・たくさんおもちゃがあって、子供がのびのび遊べていた。
- ・たくさん魅力的なおもちゃがあって月齢に合うものを教えていただけたことも良かったです！

② 専門職による相談

- ・親は、子どもの遊ぶ様子を近くで見守りながら相談が出来ていた。
- ・スタッフは、親子を相談員に繋げられるよう意識的に声を掛け、相談に繋ぐことが出来た。（妊婦さんや子育て中の保護者）
- ・相談コーナーを設けたり、親子の傍に座ったり、場の雰囲気や相談員が臨機応変に相談を受ける体制が取れた。
- ・今年度から言語聴覚士が加わり、言葉についての相談を希望する利用者が多いことが分かった。
- ・専門職への相談件数は、43 件であった。

<アンケートより>

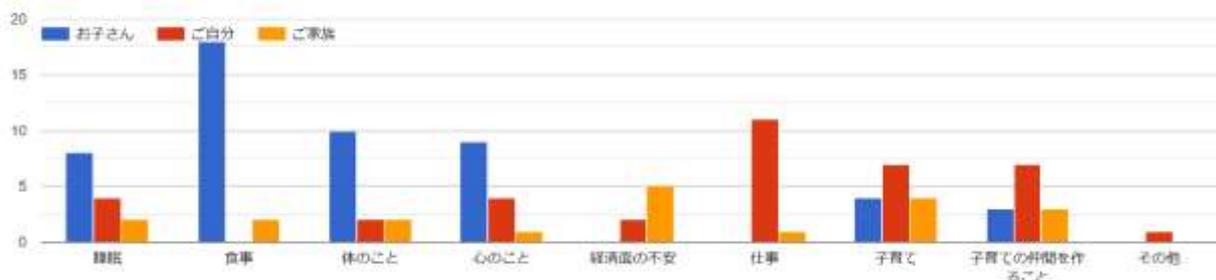
- ・家庭医の先生、作業療法士の先生に悩み事が相談できた。初めての場所でたくさんのお友だちやスタッフさんたちと楽しそうに遊ぶ我が子の姿が見えた。
- ・子どもが喜んで遊んでいたし、専門の方とお話しも良かったです。
- ・沢山おもちゃがあって、歯科医師の先生にも相談できて大変満足。また参加したいです。
- ・新しいおもちゃに色々興味を持って遊んだり、子どもを遊ばせながら言語聴覚士の方や保育園の先生とお話しすることができて良かった。
- ・色々な方が声をかけてくださって助産師さんのお話も聞いて安心できました。

<どんなことを相談してみたいかアンケートより>

- ・相談してみたい内容として、子どものことでは、食事、体、心、睡眠（R4 年度は食事、睡眠、体、心の順）について、親自身のことについては、仕事、子育て、子育て仲間を作ること、心が選択されていた。（R4 年度は子育て、子育て仲間を作ること、心、体の順）

- ・個別で相談したい場合に連絡先を記入する欄を設けたが、連絡先の記載は全くなしであった。相談してみたい項目については昨年度のアンケート結果と類似していたが、本事業において個別での相談対応までは求められてはいないとする。
- ・参加者アンケートに、「普段利用している子育て支援拠点の支援者に話を聴いてもらったり、相談できていたりする」との記載があり、顔なじみの支援者への相談が出来ていることが分かった。

6. どんなことを相談してみたいですか？（複数回答可）



<どんな場があると気軽に相談できると思いますか？アンケートより>

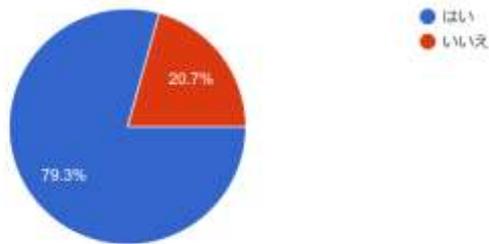
- ・子どもの遊びが中心でそれを見守りながら相談・お話が聞けるという環境はとても居心地が良くてよかったです
- ・今回のような遊び場と一緒にいると気軽に話せてよかったです。
- ・子供が遊べるイベントを通してお母さん同士も交流できる場
- ・支援センターに相談員さんが出張してくれてきたら嬉しいです。
- ・年齢や住まいなど共通の方と繋がれたら嬉しく思います。
- ・木のおもちゃに触れて、気軽に相談というか、話せるのはよかったです。話して、気づくこともあるので。
- ・家から近い場所にあるといいなと思います。
- ・同じくらいの月齢の子との集い。

③ ハッピー♥サイクル

- ・7/22 は瀬戸内市社会福祉協議会主催の「衣類交換会」でのおでかけひろばであり、主催者から事業内容が類似しているハッピー♥サイクルは見合わせるよう依頼があったため会場でのハッピー♥サイクルコーナーは実施しなかった。
- ・その代替として、ハッピー♥サイクル登録者で当日受け取りを希望した瀬戸内市在住の方へ食品提供を行うことができた。
- ・今回の連携事業により、瀬戸内市社会福祉協議会から粉ミルクやレトルトの幼児食などの寄付が得られた。
- ・R4 年度から引き続きおでかけひろば連携先となっている団体は、品物提供の中継先として安心して品物の受け渡しを依頼できる場所となった。
- ・今年度、おでかけひろばを実施しなかった団体や、顔が繋がっていたスタッフさんが退職された団体では連携が途絶えがちとなってしまった。顔の繋がりは大切だと感じた。

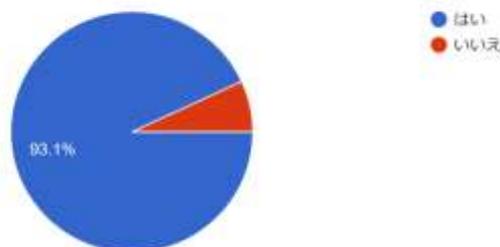
8. ハッピー♥サイクルは利用されましたか？

29件の回答



9. 今後、ハッピー♥サイクルを利用したいと思いませんか？

29件の回答



④ カフェコーナー

- ・1/11 岡山市東区瀬戸町江尻レストパークでのおでかけひろばにてカフェコーナーを設けた。参加者同士がリラックスして交流できる時間を提供できた。

<アンケートより>

- ・色々な方とお話できて、そして気持ちを受け止めてもらえてホッと出来る時間でした。
- ・子どもが楽しそうによく遊びました。私も気分転換になりました。
- ・お茶タイムかできたりゆっくりできた。初めての参加でしたが、フレンドリーに声をかけていただき安心して過ごせました。
- ・子どもを見ていただいている間にお茶をしたり、ホッとできる時間が過ごせて、ありがたかったです。
- ・(スタッフに我が子を) 見てもらいながら少し離れた所でお茶するという経験が初めてだったので、子どもが私ではない人と関わりながら遊ぶ姿が見られて嬉しかったし新鮮でした。

<アンケートおでかけひろばについての自由記述より> (7件の回答)

- ・たくさんの子とも触れ合えるし、のびのび遊べてよかったです。
- ・初めておでかけひろばに参加させて頂きました！たくさん学びがあり、元気もいただけで参加してよかったです！ありがとうございました！
- ・今回のイベントで同じ悩みのお母さんとお話しができて嬉しかったです。子供もお友達や違う環境で遊べて、すごく刺激を受けました。
- ・また参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

- ・声かけていただけて嬉しかったです！
- ・このような素敵な機会を作ってください、ありがとうございました。
- ・同じ年の子どもとふれあえてとても楽しそうでした。私も最近気になっていたことを相談できて安心しました。



3. ハッピー♥サイクル実施状況(おでかけひろばを含まない)

(1)受取希望者への提供 (ママほっとカフェ実施日の提供分を含む)

時 期	提供件数と提供場所				
	来所にて提供	配達にて提供		連携先にて提供	
	(件数)	(件数)	配達先	(件数)	連携先
令和5年5月	13	2	和気町	5	①岡山市立万富公民館②和気子育て支援センター
6月	20	3	和気町	12	①③江西桜子ども園なかよしひろば、 ④NPO 法人備前プレーパークの会
7月	30	14	和気町、瀬戸内市、備前市	3	①
8月	16	2	和気町	2	①
9月	11	0		0	
10月	14	3	瀬戸内市、赤磐市	1	②
11月	13	1	岡山市東区瀬戸町	3	①
12月	32	2	瀬戸内市	1	①
1月	10	0		3	①③
2月	13	5	和気町、備前市	0	
合計件数	172	32		30	

(2)品物の寄付受け取り

時 期	団体 (件数)	個人 (件数)	合計 (件数)	寄付の提供元
令和5年5月	9	6	15	①恒次工業、②ザ・ビッグ和気店
6月	12	2	14	①、②、③フードバンクびぜん〜にこにこ〜、④更生保護施設等連絡協議会
7月	14	6	20	①、②、④、⑤子どもを主体とした地域づくりネットワークおかやま、⑥NPO 法人フードバンクわけらびっと、 ⑦瀬戸内市社会福祉協議会、⑧認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ
8月	3	3	6	①②
9月	2	7	9	②⑧
10月	2	3	5	①②
11月	7	8	15	①②⑥
12月	13	3	16	①②⑤⑥⑨松川農園
1月	3	8	11	①②
2月	6	6	12	①②⑨
合計	71	52	123	

- ・品物受取希望者への提供数は、234 件であった。
- ・品物寄付受け取り件数は、団体から 71 件、個人から 52 件、合計 123 件であった。
- ・公式アカウント数が 95 件となった。メッセージ数の制限により 1 か月の配信回数に限られる為、R5 年 11 月に地域別に再登録するよう呼びかけた。現在の受取希望者の登録数は、岡山市 9 件、赤磐市 13 件、和気町 40 件、瀬戸内市 5 件、備前市 14 件、合計 81 件となっている。
- ・派生事業として子どもの居場所と子ども食堂事業「にっこりん」を開催した。その中でハッピー♥サイクルのコーナーを設け、子どもたちへ食品類などの提供を行った。
- ・ハッピー♥サイクル登録者がボランティアとして参加した。
- ・本事業のチラシを町内のこども園、小学校、中学校へ配布し、町内の 3 世代同居で生活困窮を訴える方の登録に繋がった。(NPO 法人フードバンクわけらびっとへ繋がった)



4. 他機関との連携実施状況

- ・本事業を通じて、連携先の担当者との顔が繋がる事ができつつある。
- ・R5 年 5 月～R6 年 2 月までの他機関との連携件数は 11 件、そのうち継続して関りがある家庭 9 件とハッピー♥サイクルで緩やかに繋がっており、時々利用されている。
- ・気になる家庭との繋がりを保ちつつ、困っている時に連絡できる所として繋がりが継続する為の事業の確保が必要である。

5. 広報実施状況

- ・R5. 7. 14 和気町内 2 こども園、3 小学校、2 中学校へおでかけひろば・ハッピー♥サイクルのチラシを配布した。
- ・同日、備前市、赤磐市、玉野市、岡山市、瀬戸内市、吉備中央町、和気町へ郵送。
- ・同日、NPO 法人子どもたちの環境を考えるひこうせん、NPO 法人備前プレーパークの会、NPO 法人ふれあいサポートちゃていず、社会福祉法人江西桜こども園、岡山市立万富公民館へ配布した。

- ・ SNS にておでかけひろばの参加者募集と実施後の様子を掲載した。
- ・ ママほっとカフェのチラシは、和気子育て支援センター、万富子どもひろば、社会福祉法人江西桜こども園なかよしひろばにて配布した。毎月、SNS へ掲載したりハッピー♥サイクルの公式アカウントにて配信したりした。



<成果・効果>

木のおもちゃの遊びの提供

- * 木のおもちゃは高価であり、家庭内で多くの種類を購入することは困難である。身近な場所で開催する「おでかけひろば」において複数の木のおもちゃに触れ、好きな遊びを見つけられることは、子どもにとって大きなメリットである。
- * 木のおもちゃを使って発達に合わせた遊びや楽しいところ（子どもが興味を持つポイント）をスタッフが紹介することで、保護者の子ども理解が深まった。

<アンケートより>

- ・ 積み木をし、色んな形の木を触って楽しそうだった。
- ・ レールをたくさん繋げて、電車を楽しそうに走らせていた。
- ・ なかなか高価で購入しづらいので、どんなものがあるか知れてよかった。木のボールプールを手でかきまぜて楽しそうに遊んでいた。手触りがよく子どもも楽しんで遊んでいた。
- ・ 目がキラキラ輝いた。木のおもちゃは、家庭でたくさんはなかなか用意できないので、有難いです。
- ・ 木の音が鳴るのでとても木育に良かった。

スタッフがかかわることのメリット

- * 「おでかけひろば」スタッフが「遊び」「相談」「ハッピー♥サイクル」を理解している為、事業の中で親子と関わりながら母の思いを聴いたり、3つの事業が利用できるようさりげなく声掛けが出来たり、細やかに意識的に動くことが出来ていた。

<アンケートより>

- ・ お友だちやスタッフの方とワニやアリさんと追いかっこをしていて、いつのまにか誰とでも一緒に遊べるようになって成長を感じました。
- ・ スタッフの話から、実際に触れることはもちろん、見せることも大切だと知りました。上手に追視できていたのが印象的でした。

親の発見がある

*我が子が木のおもちゃで遊んだり、保護者以外の大人や子どもと関わった時の反応を客観的に観察し、知らなかった我が子の一面を発見する機会となっていた。

*家庭の中で親子だけで過ごすことの良さはあるが、他者と関わることや思いを受け止められることの良さを実感し満足している参加者の声があった。

<アンケートより>

- おままごとのおもちゃが豊富ですごく楽しそうに包丁で野菜や果物を切っているのが印象的でした。
- 繰り返し木のボールを転がし集中して遊ぶ様子が見られました。
- 道具を使って遊ぶということができた。
- 親子で楽しめました。とても楽しかったです！
- 色んな方とお話できて、そして気持ちを受け止めてもらえてホッと出来る時間でした。

身近な場所でハッピー♥サイクルの品物提供、定期的に顔が合わせられることで利用者の信頼が得られる。

- 最初はあまり話をせず品物だけを受け取りすぐに帰られていた方が、少しずつ支援者や場の空気に慣れていき、ホットドリンクを飲みながら近況を話されるようになった。
- 利用者が他の利用者のことを心配して相談に来たり、今まで取り組めなかったことに取り組むための支援を求めてきたりする姿があった。
- 気になる利用者の情報共有を自治体と行い、利用者理解を図ったり支援の方向性を共有したりすることが出来つつある。
- ハッピー♥サイクルを通じて、利用者を「にっこりん😊」と繋げられた。
- ハッピー♥サイクルの品物の寄付が受けられる連携先が増えた。フードトリップおかやまへの登録。

派生事業

1 参加した父親の声や多胎児の育児支援

→おでかけひろば内でできる父親や多胎児の育児支援について検討した。おでかけひろばに父親の参加がある場合には、スタッフが積み木を通じて声をかけるなど、緊張感がなく遊びの場へ入っていきけるさりげない手助けを行った。また、R4年度に万富公民館にてお父さんと一緒に参加を促したおでかけひろばを実施しており、今年度も本事業とは別事業として、「お父さんと一緒」を開催し、父親の育児支援を行った。さらに、R4年度におでかけひろばへ参加した双子の母親と繋がりを発展させ、「ふたごちゃんのあつまり」を実施した。今後、多胎児支援の在り方についても模索していく。

①R5. 9. 16 万富子ども広場「お父さんと一緒」



②R5. 10. 20ふたごちゃんのおつまり



2 乳幼児の親子だけではなく支援の対象を広げる

→子どもの居場所と子ども食堂事業「にっこりん」を実施した。団体所在地のある地域の小学校とハッピー♥サイクル登録所へチラシを配布し参加を募った。小中学生のいる家庭と繋がり、その後のハッピー♥サイクルの利用頻度が増えた。近況や困りごとを聞く機会が増えつつある。

③ R5. 7. 17、11. 3子どもの居場所と子ども食堂事業の「にっこりん」



担当課：子どもの遊びと食料品等の提供の機会を通じて子育て相談につないでいく取組みが地域において浸透しつつある。また、本事業を通じて団体間の連携が深まり、地域における子育て支援のネットワーク化が図られるきっかけとなった。さらに、木のおもちゃ遊びが他団体にも取り入れられるとともに、新たに事業を派生させるなど、子育て親子が支援団体と結びつく機会の増加が期待できる。

<課題・今後の方向性>

①「おでかけひろば」ではなく、木のおもちゃだけの利用を希望される団体が増えてきており、相談やハッピー♥サイクルは各団体等で賄えると推測する。その場の雰囲気をつくったり、ファシリテートしたりするスタッフがいることで居心地よく温かな空間が生まれること（目に見えない部分）を連携団体へ丁寧に伝えてい

く必要がある。

→「おでかけひろば」の依頼を受ける際には、事業説明時に3つの事業を繋ぐスタッフの重要性を伝える。

- ② 今後も本事業で繋がっている相談員のネットワークが子どもの育ちや子育てを支える上で必要となるが、何もきっかけがなければ途切れてしまう為、途切れない為の工夫が必要となる。

→他事業での講座の講師や専門家の相談日などを設け、相談員として関わりを維持していく。年に1~2回顔を合わせられる集まりを開催する。

- ③「おでかけひろば」の連携先で顔が見える繋がりをつくり、ハッピー♥サイクルがスムーズにできていたが、担当者が退職してしまうとその団体と連携が取りにくくなってしまった。

→担当者同士の繋がりを核として団体間でも顔が見える繋がりをつくり、ハッピー♥サイクルの協力を継続する。

- ④過疎化が進み家庭で子育てをしている親がほとんどいない地域で「おでかけひろば」を実施してもその地域の親子が利用しない場合、単発開催では利用者が子育て支援を通じた出会いや機会を逃してしまう。

→過疎化が進んでいる地域への子育て支援の在り方を考える。園の参観日等で「おでかけひろば」を実施する提案など。

- ⑤ ハッピー♥サイクルと子育て相談事業のママほっとカフェは、認知が高まり一定数の利用者がいるが、今後の継続方法の確立が必要である。

→別事業で継続実施する。

- ⑥ 満足度の高い「おでかけひろば」を居住地の近くで開催して欲しいというニーズがあり、親子がいるところへ出向く子育て支援は必要である。

→R4、5年度「おでかけひろば」を実施させていただいた連携先団体へ、アウトリーチ型の子育て支援「おでかけひろば」の必要性を伝え、当団体の「おでかけひろば」の利用を提案する。

担当課：

- ・本事業の取組みを通じ、地域の子育て家庭にとって顔が見える身近な相談機関として当団体の認知が高まりつつある。相談の敷居が低く、物理的にも近距離にあり、子育て世帯と継続的につながる「地域の子育て相談機関」として位置づけられることが期待される。
- ・2年間の補助事業を通じて培った事業ノウハウや多種多様な相談員とのつながり、また、他団体との連携を活かし、父親の育児参加や多子世帯支援など、今後も地域のニーズに即した取組みを進展させてほしい。

※ チラシ、パンフレット等の作成物がありましたら、1部添付してください。